

平和公園自然観察会

<http://heiwakoen.sakura.ne.jp/sizen-kansatukai/>

平成24年8月12日(日) 9:30~12:50

前日の天気予報では降雨率が90%で、雨具を用意していたのですが、日差しの強い真夏の晴れになりました。新池周辺はクマゼミ(熊蟬, セミ科)の鳴きしぐれが頭上から降ってきていました。野鳥のいない新池のスイレン(睡蓮, スイレン科)は、白い花はもうなくなっていました。葉が水面を覆っていました。9時には、すでに日差しがきつかったので、東星ふれあい広場では誰も遊んでいず、ギンヤンマ(銀蜻蛉, ヤンマ科)だけがスイスイと飛んでいました。ニセアカシア(針槐, マメ科)とアカメガシワ(赤芽榊, トウダイグサ科)には実がついていました。里山の家屋根には芝生だけでなくヤハズソウ(矢筈草, マメ科)などの野草が大きく育っていました。平和公園境界の石垣に貴重種のみずスギ(水杉, ヒカゲノカズラ科)が2株ありました。里山の家すぐ周辺でもギンヤンマやトノサマバッタ(殿様飛蝗, バッタ科)がいました。参加者は、子供3名と大人25名でした。

まず、参加者が持ってきた食用ヘチマ(糸瓜, ウリ科ヘチマ属)を観察しました。形は、ズッキーニ(Zucchini, ウリ科カボチャ属)に近い細長いものでした。普通のヘチマは苦いですが、食用ヘチマはほとんど味がなく、スイギョウザ(水餃子)に入れて食べるという説明がありました。キュウリ(胡瓜, ウリ科キュウリ属)の仲間ではなく、カボチャ(南瓜, ウリ科カボチャ属)に近いという説明もありました。

次に男の子が持ってきたカナヘビ(金蛇, カナヘビ科)の子供を観察しました。前々回持って帰ったカナヘビが子供を8匹生んで、その内の5匹でした。生まれて1週間ぐらいの小さなカナヘビでした。アブラムシ(油虫, アブラムシ科)などを食べるそうです。ほしい人にあげるということでしたが、餌を探すのが大変そうということで誰も手をあげませんでした。学校でカナヘビを観察して自然科学に興味を持って、薬品会社で研究者をしている人がいるという話が出ました。何か一生懸命になれば、他の機会をなくす(機会費用)ということですが、人は同時に2つを選択して生きてはいけないので、良い選択をしたと思って努力するよりないと思います。

カナヘビの飼いは、直射日光は避け、湿気は十分に、ただし水をかけないで、1日10分間は日に当てるとのことでした。爬虫類用の紫外線ランプが売っているそうです。カルシウムから骨を作るためにビタミンD3が必要で、これが紫外線を浴びて体内で作られるからようです。ある種類の爬虫類の雌雄は、孵化時の環境温度で決まるという話題が出て、山崎川のカメの雄は1割しかいないという話が出ました。

<http://www.st.rim.or.jp/~samacha/TSEF/TSD1.html>

6月の日経新聞のバキュロウイルス(Baculoviridae, バキュロウイルス科)の記事を持ってきて、幼虫を乗っ取って、足を動かす神経以外を溶かして、枝先などの目立つところで死なせ、鳥などに食べさせてウイルスを拡散させるという話をした参加者がいました。関連して、ツタンカーメンの呪いも話題になりました。呪いではなく、ピラミッドの何千年前の病原菌やコウモリの糞に繁殖する寄生虫が原因という説もあるようですが、全く科学的根拠がなく、でたらめという説もあるようです。

<http://dice666.blog90.fc2.com/blog-entry-65.html>

<http://www.moonover.jp/bekkan/mania/thutan.htm>

オシドリ(鴛鴦, カモ科)やツバメ(燕, ツバメ科)の子供が、つがいの相手とは違う遺伝子を持っている例が多いということも話題になりました。生き物の生き残り戦略のようです。

先月の報告を見て、ムラサキカタバミ(紫片喰, カタバミ科)はユリ根が増えて、取れやすい1つの球根(鱗茎)から1株が増えて、なかなか駆除できないという説明がありました。イモカタバミ(芋片喰, カタバミ科)との違いは花のおしべの色と根の形を見れば分かるということでした。

出発してすぐに、里山の家倉庫の前の6つのバケツ稲を観察しました。バケツ稲は、苗を1本、3本、5本の株を植えたものをそれぞれ2つずつ作っていました。品種は、喜寿というモチ米でした。分けつ数を確認するため、皆で茎をかぞえました。その結果は以下のようでした。

1本苗: 26本, 40本, 3本苗: 31本, 40本

5本苗: 28本, 43本

何本の稲を最初に植えても、最終的に平均の茎の数はほとんど変わらないので、もみの使用量を考えれば1本苗の効率が高いことが分かりました。普通は、田植機も3本苗で田植をするそうです。5本苗のバケツの稲の横にはホソバヒメミソハギ(細葉姫稈萩, ミソハギ科)が生えていました。

カエル池の近くでセリ(芹, セリ科)の小さな密集した白い花を観察しました。人参の花に似ているという感想がでました。近くの



アカメガシワ



みずスギ



食用ヘチマ



バケツ稲の茎数の比較



セリの花



ヤブガラシ



ヤナギハナガサ



アレチハナガサ



ミソハギ



サツマノミダマシ



アオマツムシの幼生(幼虫)



サトクダマキモドキ

ヤブガラシ（藪枯，ブドウ科）には，緑色の5 mm 大の実がついている株と，ほとんどついていない株がありました。小さな花弁が落ちた花盤（蜜のついた盤状の花托）は緑色とオレンジ色のものが混じっていました。葉は，鳥足状複葉で3枚や5枚のものが多くありました，蔓（つる）と葉は対生で，蔓の方が本線でどこまでも伸びて，茎になっていました。

平和公園の植物に名前の案内板があるかどうかという質問に対して，大勢は名前を見ると分かったような気がして観察しないのでいないという回答でした。

よく似た紫色の小さな花をつけたアレチハナガサ（荒地花笠，クマツヅラ科）とヤナギハナガサ（柳花笠，クマツヅラ科）がありました。ミソハギ（稷萩，ミソハギ科）の花も水路近くに数株ありました。コナラ（小楡，ブナ科）の葉に緑色のサツマノミダマシ（薩摩実騙，コガネグモ科）を見つけて皆で観察しました。その後で，約10 mm 長の横縞のある昆虫を2匹捕まえました。カネタタキ（鉦叩，カネタタキ科）やクサヒバリ（草雲雀，クサヒバリ科）という名前が出ましたが，大きすぎるのでアオマツムシ（青松虫，コオロギ科）の幼生（幼虫）ではないかということになりました。

<http://serigaya.cocolog-nifty.com/blog/2010/07/post-e62d.html>

いつも見る元畑で，キクイモ（菊芋，キク科）以外に大きな葉を持つオオブタクサ（大豚草，キク科）が侵入しているのを見つけました。ここで，後脚が1本しかないサトクダマキモドキ（里管巻擬，キリギリス科）を見つけて観察しました。アオバハゴロモ（青羽羽衣，アオバハゴロモ科）もキクイモの茎にたくさんいました。指で追いかけると茎をまわりこむような動きを見せました。熱を感じているのではないかと思い，棒で追いかけても同じ動作をすることを確認したと話す人がいました。

1 cm 大ほどの白い虫のまゆ状のものを観察しました。小さな穴がいくつかあいており，一つだけ黒いものが残っていました。クヌギシギゾウムシ（柗鷓象虫，ゾウムシ科）をナツハゼ（夏黄櫨，ツツジ科）のところで見つけて，皆で長い口を観察しました。ナツハゼの実が熟すとおいしいそうです。

10 cm くらいの大きなカマキリ（螳螂，カマキリ科）を捕まえて，1人の女の子に胴を持つように勧めましたが，怖がって嫌がりました。もう1人の女の子は平気で持ちました。近くのアベマキ（楡，ブナ科）の葉に数 mm 大の赤い虫こぶがたくさんあるのを見つけました。白い花が下向きに咲いていたネジキ（楡木，ツツジ科）は，すでに緑色の実をつけていましたが，上向きでした。

樹液を出しているアベマキの幹でヒメホシカメムシ（姫星亀虫，オオホシカメムシ科）を見つけて観察しました。エサキモンキツノカメムシ（江崎紋黄角亀虫，ツノカメムシ科）もいました。

水田近くの道端で，大きなショウリョウバッタ（精霊蝗虫，バッタ科）が草の先端で死んでいるのを発見して，バキュロウイルスのせいではという話題になりました。他にも数匹のバッタが草につかまったり死んでいました。バキュロウイルスがつく種は限られていますので，多分，普通の自然死でしょうが，気をつけてみると意外と草につかまったり死んだ多くのバッタの死骸を発見できました。

アベマキの幹の高い所に複数のコシロシタバ（小白下翅，ヤガ科）がとまっていた。近くで，ナガコガネグモ（長黄金蜘蛛，コガネグモ科）の網に10 cm 大の大きなショウリョウバッタがかかり，白い糸で巻かれているのを観察しました。ショウリョウバッタはまだ生きていました。他のナガコガネグモにかかった小さな昆虫はあつという間に白い糸に巻かれてしまいました。その周辺はキリギリス（螽斯，キリギリス科）の鳴き声が盛んにしました。

http://www.jpmoth.org/Noctuidae/Catocalinae/Catocala_actaea.html

男の子がせせらぎでケラ（螻蛄，ケラ科）を見つけて水の中へ入れて泳がせました。あまりに直鎖日光が暑いので，大きなキリの木陰へ避難しました。実のついたキリ（桐，コマノハグサ科）の木陰は大変気持ちの良い場所でした。すぐ横のシンジュ（神樹，ニガキ科）にも実がついていました。

100 m くらいを歩くのに1時間半かけてしまったので，急いで湿地に行き，サギソウ（鷺草，ラン科）の花を数えました。もっとも大きな数字は，男の子の20個でした。ミズギボシ（水擬宝珠，ラン科）とワレモコウ（吾亦紅，バラ科）もありました。カキツバタ（杜若，アヤメ科）も1株だけ，紫色の花を咲かせていました。タカサゴユリ（高砂百合，ユリ科）の花やガガイモ（蘿芋，ガガイモ科）もありました。

里山の中で感想会をしました。女の子が，ギンヤンマを網で捕まえて持っていました。尾の上が青色であり雄でした。子供のころ，網を振り回して，ギンヤンマの雄をたくさん捕ったこと思い出しました。美濃太田駅の大量のツバメやバキュロウイルスに関しての感想が出ました。汗だくになりましたが，多くの生き物が観察できた楽しい観察会になりました。

観察項目：カナヘビ，食用ヘチマ，バキュロウイルスの新聞記事，イネの分けつ，ヤブガラシ，セリの花，アレチハナガサ，ヤナギハナガサ，ミソハギ，サツマノミダマシ，アオマツムシの幼生，キクイモ，オオブタクサ，ショウリョウバッタ，サトクダマキモドキ，ギンヤンマ，クヌギシギゾウムシ，カマキリ，アベマキの虫こぶ，ネジキ，ヒメホシカメムシ，エサキモンキツノカメムシ，コシロシタバ，ナガコガネグモ，ケラ，キリ，シンジュ，サギソウ，ミズギボシ，ワレモコウ，カキツバタ，タカサゴユリ，ガガイモ，ユスラウメ，ヤマモモ，ヒメホシカメムシの幼虫，メイガの幼虫，ホソバミソハギ，シロバナサクラタデ

文・写真：伊藤義人 監修：滝川正子



アオバハゴロモ



虫のまゆ？



クヌギシギゾウムシ



アベマキの虫こぶ



コシロシタバ



ナガコガネグモに捕まったショウリョウバッタ



水面のケラ



キリの実



ミズギボシ



ワレモコウ